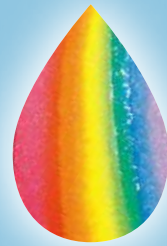


2021年(令和3年)度
沖縄県社会的養護自立支援事業

事業報告書



沖縄県那覇市首里石嶺町2-66-1 スカイマンション107
TEL : 098-996-3182
nijinoshizuku2018@yahoo.co.jp



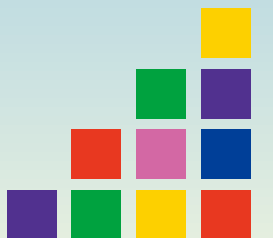
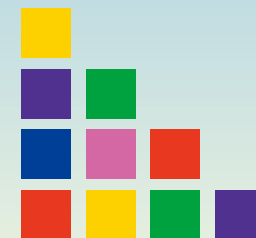
NPO法人 にじのはしファンドHP
<https://www.nijinohashi-okinawa.com/>

この冊子は、誰かに「にじのしずく」を教えたいな—と思う方が、
わたしたちに代わって届けてくれることを願い作りました。



NPO法人 にじのはしファンド
アフターケア相談室

にじのしずく



「児童養護施設や里親家庭、ファミリーホーム、自立援助ホーム、児童心理治療施設、母子生活支援施設等を退所した方が、社会で一人ぼっちにならないよう、出会い、話をよく聞いて、やって欲しいことを手伝う相談室です。長い人生につまづきや失敗はつきものです。むしろ失敗の中に、人生を豊かにする発見があるかも。生活の困りごと、仕事の相談やアパート探し、子育て支援、経済的なことなど……。あなたが「なりたい自分になる」ことをあきらめないために、いっしょに考え行動します。

にじのしずく 今日までの あゆみ

2011年
1月

施設を退所し
大学に進学する子どもに
給付型奨学金を
毎月仕送りする
「にじのはしファンド」を
代表、系数未希が
立ち上げる。

2016年
8月

「金ちゃんラーメンの会」
(当事者と夕食を囲む会)
発足(年2回)

2018年
5月

「りゅうちゃん子どもの
未来助成事業」にて
シェルターを1床確保し
相談事業を開始

2019年
4月

「沖縄県社会的養護
自立支援事業」を
受託し、専従職員3人
配置する。

2020年
8月

パート1人加え
4人体制で
支援にあたる

2017年

「金ちゃんラーメンの会」
を毎月1回から
毎週金曜日へ
定例開催スタート

2021年
12月

那覇市首里石嶺町に
事務所を移転



にじしずく
無印良品



棚原 喜美枝
たなはらきみえ

生まれ育ち■浦添育ちの県産品100%
役割・資格■支援コーディネーター、保育士、社会福祉士、精神保健福祉士、相談支援専門員
好きなこと■畑・空手・サンシン・少数派(多くの人が目にも止めないもの)
将来のゆめ■ヨットで離島1周
好きな言葉■人生万事塞翁が馬(うま年だから)
自分の気に入っているところ■楽観的、遅刻魔だけど直そうと思っているところ



名幸 智
なこうさとし

生まれ育ち■な一ふあんちゅ(那覇人)
役割・資格■就労相談支援員、職業紹介責任者、介護福祉士、相談支援専門員、サービス管理責任者など
好きなこと■川遊び、山遊び、海遊び
特技■どこでも寝られる
将来の夢■屋久島へ移住
好きな言葉■諦めたらそこで試合終了ですよ
自分の気に入っているところ■4人の中では一番常識人!



松島 亜紀子
まつしまあきこ

生まれ育ち■東京生まれ秋田県育ちのブレンド米
役割・資格■ネイル2級、アドバンス(ダイビングライセンス)、船舶小型特殊、船舶2級取得を検討中な生活相談員
好きなこと■安室奈美恵サマをこよなく愛する♡海で遊ぶ
特技■えら呼吸
将来の夢■安室奈美恵サマとお友だちになる、マンボウと泳ぐ
好きな言葉■一期一会
自分のよいところ■3歩歩いたら忘れる



久場 敦子
くばあつこ

生まれ育ち■那覇生まれ4人兄弟の長女
(でも一番しつかりしてない)
花の20,30代は80kgの巨体で過ごす
役割・資格■生活支援員、中医薬膳指導員・中医薬膳調理師・チャイルドマインダー、調理師
好きなこと■料理、楽しいお酒、映画鑑賞(でもホラーは苦手)
将来の夢■しずくっ子とゆるーいカフェを開く、孫ができたなら一緒に走って遊ぶ
好きな言葉■腹八分、いちゃりばちよーでー

開所日と時間、開所日数実績

土曜日を除く11時から20時まで(水曜日は就労支援員のみ出勤し、対応)
年間開所日数:293日

のべ相談者数と内訳

■電話 ■メール ■来訪者 ■アウトリーチ

当事者



関係者・当事者周辺者

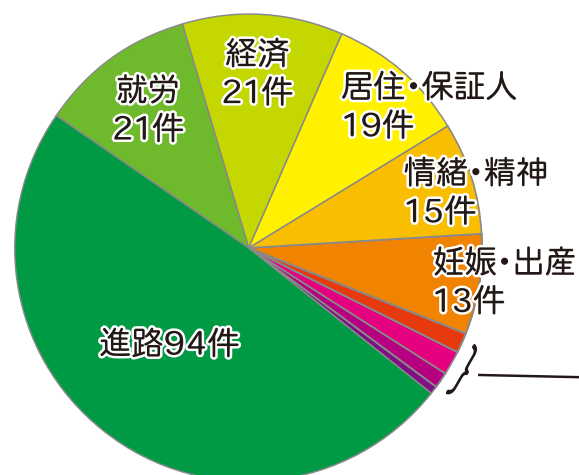


新型コロナの影響により、3年目の相談者は電話、メール、アウトリーチでの支援が120～130%の増加しており、開所からの相談実数は215件に達した。感染対策として、当事者会の開催を10月から12月の3か月間に限定した為、来訪者は若干減少している。関係機関の相談対応はアウトリーチが126%の伸びで、他は昨年同様の推移であった。

初回相談年齢

2022年3月31日現在(生活支援と就労支援、重複者あり)

年齢別	18歳未満	18歳新措置 解除児童	19歳～22歳	22歳以上	生活相談	196件
人数	10人	33人	112人	65人	就労相談	28件



2021年の おもな相談内容

今年度、新規の相談は48件であった。
全体の相談内容はグラフの通り。

家族問題3件
DV・虐待2件
健康2件
その他1件

金ちゃんラーメンの会(当事者交流会)



コロナの影響で全17回、
述べ108人の参加でした。
赤ちゃん連れの参加も増えてます♡



みんなで一緒に
ワイワイごはんを食べる
週に1度のお楽しみ!



金ちゃんができない日々、、、
20食限定でお弁当を持って
訪問しました。当事者の手伝いが
就労前準備支援として
定着しています。



大学ごとに分けた
先輩と後輩の交流や
里子だけの交流会も
初の試みでした

施設ごとの同窓会スタイルは大好評♪
一番リラックスできる
一緒に育った仲間たち♡



やんばる金ちゃんは 全8回

述べ16人の参加でした。
密を避けて屋外でモグモグ。

プレミアム金ちゃん(当事者交流会)

当事者が学びたいことをテーマに講師を選定して
全5回述べ25人が参加しました。

アロマセラピー

香りや感覚、五感で感じる
セルフメンテナンスを
学びました。



(講師:
金城さちよさん)



にじいろクッキング

毎日がんばる自分のため、
カンタンクッキングで栄養補給♪
(講師:国際中医薬膳師 花城 春江さん)



腰痛予防教室

子育て中の当事者ママを中心に
(講師:しゆり助産院 諸喜田助産師)



マリンスポーツ体験

ココロが疲れた時は仲間とともに自然にふれてみよう♪
ひとは自然と人との間でいやされ、回復していくことを実感。

(講師:ハピネスマリクラブインストラクター 島袋 慎氏 石川 達太氏)



防災キャンプ教室

アウトドア課外授業!
焚き火はロマン～



性教育

性的同意について学ぶ(性教育)
(講師:思春期保健相談師 菊谷愛子助産師)

職場実習と就労前準備支援

名護市許田農園にて
職場実習の受け入れをして頂きました。



南風原町宮城の農園にて、
玉ねぎ、レタス、ほうれん草、枝豆、
芋などの野菜を当事者といっしょに
育てています。



障がい福祉事業所の方々と交流を兼ねた芋掘り大会

これまで開所から3年余り、
畑の植え付けや収穫を
ご指導ご協力頂いている玉城浩志氏と
芋の収穫を行いました。



種まきからはじまる植物の成長を目の当たりにすることや、
太陽の光をあびて、土にふれからだを動かすことは、
情緒的にも良いと精神科の医師からも薦められています。



毎週金曜日の弁当作り
調理実習と就労前準備支援にも
なっています。



グループホームのホームキーピング
新たな就労前準備支援として
委託を受け、行っています。



パソコン入力作業
エクセルなど基本動作を教えてくれる
講師のボランティアさん募集中です

自立支援プログラム

高校3年生(社会的養護措置中)を対象



コンビニ素材を使ったカンタン調理



試食会



相談室に来てもらうことも
目的の1つです。

何のために仕事をするのか？

沖縄青少年自立支援センターちゅらゆい 金城隆一さん

スマホ・インターネットの安全・安心な使い方

KDDIさん

アパート探しのコツ

沖縄大家の会 下地潤栄さん



自分研究

監修・講師 野村れいかさん(公認心理師・九州大学教員)

生活に役立つ法律

琉大教授 矢野恵美さん

クレジットカード・お金の使い方

沖縄県金融広報委員会 大城人志さん

市役所での手続きのやり方

那覇市役所 職員さん

社会に出る前に
知っておいてほしいことだよ



6施設の代表職員と
全10回のリモート会議で作上げた
共同プログラムを初提供できました



18歳で措置解除を迎える高校3年生については、8月から始まる『自立支援プログラム』を通して、出会います。にじのしずくのスタッフは、一人ひとりの当事者のお話を聞かせてもらったあとに、退所後に、「どんな自分になりたいか？」また、一人暮らしをすることの不安や、一緒にやって欲しいことのお手伝いをさせてもらう為の「継続支援計画」を立てさせてもらっています。

2021年度は32人の措置解除者のうち、28人に「4年後にはどんな自分になっていたか？」を聞き取りしながら、私たちに協力できることを考えました。その中にはこれから始まる新生活にワクワクが止まらない多くの子や、食事作りやお金の管理、病気になったらどうしよう?!など……。不安を隠せない子もいました。施設や里親家庭を巣立ったからと言って、卒業後の担当が「にじのしずくに変わります!」という線引きがあるわけではなく、長く暮らした施設や里親さんに加えて「にじのしずく」という新しい支援機関も加わり、ひとり一人の退所後の自立をていねいに伴走することで社会へゆるやかに着地してもらおうというものです。

2021年度、厚労省の初の退所後(ケアリーバー)への調査によると、退所者10人のうち3人が「収入より支出が多い」経済的な問題や、住まいや食事面での困りごとや生活困窮に陥っている実態がわかりました。施設や里親家庭を出た後、想定していないことが誰の上にもおこります。仕事や学校をやめることになったり、予定していた収入がなくなったり、恋人や親、親戚、家族との付き合い方、人との距離感等の人間関係などなど…。

退所した子どもたちが、
行ける場所、相談できるおとなは多い方がいい

そう願い、施設と里親家庭の関係者でインケア、リービングケア、アフターケアまでの切れ目のない支援を目指し年3回のネットワーク会議を持っています。

その中であげられてきた大きな課題は以下の通りです。

- ・これまで養育してきた者(児相・施設担当者・里親)とにじのしずくスタッフが信頼関係を深め、当事者の自立支援に必要なことを共有し、連携体制を強化すること。
- ・里子さんにはできるだけ早い時期から、にじのしずくと交流する時間が必要だということ。

全国各地で、アフターケアに取り組む事業所が増えてきています。2018年には『アフターケア事業全国ネットワークえんじゅ』が立ち上がり、全国各地で試行錯誤で行っている取り組みを参考にし、つながることでアフターケアの機能強化と「うちの子も、県外から来た子も」助け合い、近くのアフターケア事業所がみていこうとする協同体制が出来てきています。ここ沖縄でも、各施設、里親、関係機関が力を合わせることで、子どもたちを誰一人とりこぼさない社会にしていけることを、目指したいと思っています。

子どもを中心に おいた支援を 目指して…

●アフターケアネットワーク会議
10月、2月の年2回開催
本庁、両児相、各施設アフターケア担当者のべ38人が参加



●里子のためのアフターケア会議
10月、3月の年2回開催
本庁、両児相、里親会、里親支援専門員、ここサポスタッフのべ45人が参加

職員研修

若年支援における
チーム連携について学ぶ
沖縄県青少年自立支援センター
ちゅうゆい 金城 隆一氏



若年母子支援ケース検討会
公認心理師・
九州大学教員 野村 れいか氏



『トラウマを抱えている
当事者の理解を深める』
ころとからだ光の花クリニック
院長 白川 美也子氏



滋賀モデル
『退所児童アフターケア事業』
について学ぶ
認定NPO四つ葉のクローバー
理事 杉山 真智子氏

おすすめの 本

『えんじゅ アフターケアから出会いへ』



全国のアフターケアの
『今』をクラウドファン
ディングで自費出版し
ました。
当相談室もコラムを執
筆しています。

『あっち側の彼女、こっち側の私』



声にならない子どもの声を
代弁する当事者による真
実のマイストーリー。子ど
も理解をするために子ども
に関わる全てのおとなに読
んで欲しい一冊です。

各関係機関との連携・協力

経済的支援	NPO法人にじのはしファンド・沖縄県女性の翼「OK基金」 県社会福祉協議会民生部、開南カトリック教会、各個人、企業、団体
物資支援	フードバンクセカンドハーベスト沖縄、おもろまちカトリック文化センター ヘルプオキ
生活困窮者支援 居住支援	パーソナルサポートセンター、一般社団法人ウパンナ、シオンハウス 株式会社レキオス、株式会社建全、しののめケアハウス、民泊かなぐすく、 各不動産会社、オトナリハウス、県宅地建物取引業協会女性部会、 普天間山学校、子どもシェルターおきなわ、一般社団法人ある、愛さん会
子育て支援	那覇市ファミサポ、浦添市ファミサポ、一般社団法人虹のまほろば 浦添市子ども家庭課、那覇市子育て応援課、助産院パピヨン、各保育園
母子支援	マザーズスクエアゆいはあと、訪問看護ステーションえん、オハナース、 若年シングルマザーを応援するシェルター（通称「おにわ」）、助産院春 ママ笑みルーム、10代ママくらぶ、しゅり助産院、助産院パピヨン
就労支援	佐喜眞商事、太田商事株式会社、一般社団法人kukuru、魚国総本社、 株式会社建全、A型就労支援事業所サンクスラボ、オハナ宜野湾、 リッチガーデン、障害者職業センター、各就業・生活支援センター、 サポートステーション琉球、ハローワーク
DV被害者支援(法律)	県女性相談所、真喜屋法律事務所、琉球大学矢野恵美教授、 美ら島法律事務所、
障がい福祉 サービス事業所	ワークセンター愛の園、育成福祉会、サポートセンターあすなろ、すまいる 奏ホールディングス、G-PORT宜野湾、相談支援事業所アックス、おりじん、 あらかき、One-A、ウエーブ、pont、ふらっと、共同生活援助いーまーる、 ヘルパーステーションマナ等、グループホームS・I、そてつ
医 療	オリブ山病院、天久台病院、琉大病院、新垣病院、琉球病院、南山病院、精和病院、 県立中部病院、県立北部病院、さよウィメンズメンタルクリニック、とよさきメンタル クリニック、伊波レディースクリニック、うえむら病院、ころとからだ光の花クリニック、 南上原ころこの発達クリニック、訪問看護かなさん、東産婦人科
県外事業所	サポートいずみ(愛知県)、日向ぼっこ(東京都)、わっかつか(香川県)、 大分子子ども支援ネットワーク(大分県)、育ちの樹(福岡県)、しいの木(静岡県) 四つ葉のクローバー(滋賀県)、ゆずりは(東京都)



自立支援プログラム参加者へ商品券を贈呈していただきました
沖縄トランスフォーメーション専務 浦崎真作氏

いつか精神的な自立が出来るように

(退所から10年)



18歳で児童養護施設を退所して10年余りの月日が経ちます。在園中は「問題がすくない、手のかからない子」と職員に思われていたような気がします。

実際に私もそう見えるように振る舞ってきました。

「先生から嫌われて見放されたら居場所がなくなってしまう」と思う出来事が子どもの頃にあり、常に他人の顔色を気にしながら、育ちました。

卒園間近「やっと自由に生活ができる」と新生活に期待を膨らませる同年代の子がいる一方で私は反対に気持ちが塞ぎ込んでいました。児童養護施設には皆で暮らせるように"ルール"が沢山あり、私はそのルールや職員の言うことを守る事で安心感を得ていたのです。それは施設では通用しても、社会では通用しないだろうと当時の私は考えていました。

卒園後、早々私は壁にぶちあたりました。

自分の基準をもてなかった私は、人の何気ない言葉に傷つき動揺し、精神のバランスを崩すサイクルを繰り返したのです。

現在も人の価値観に振り回される事がありますが、にじのしずくや入院先での関わりを通して「自分の感情はどんな感情であれ、ありのままに受け入れていいんだ」と少し思えるようになってきました。

いつか精神的な自立が出来るよう、日々自分を育て直ししながら生きていきます。

おいしいご飯と色々な人に会える「なんかいいなあ」と思えた金ちゃん

(退所から5年の20代)

僕は児童養護施設を退所後、専門学校へ進学しました。日中はアルバイトをして、夜から学校で講義を受ける夜間制の学校です。入所中に住民票の異動や税金の手続き等、行政に関する事等は一切教わる機会がなく、慣れない初めての土地でどこに行けばいいのか、誰に聞けばいいのかも分からず手続き等が何一つ出来ず、動けないのが退所直後の現状でした。

学費や生活費の一部分は沖縄県社会福祉協議会さんやにじのはしファンドさん等、色々な所から支援頂いていたのですが、学費以外の実習費や教科書代、その他施設維持に必要なお金や寮費等は施設にいた時に貯めた貯金を切り崩して生活していました。特に2年生の下半期

から卒業までは実習や国家試験対策の為、アルバイトできる時間も限られてくる様になり、勉強の合間の隙間時間に出来るアルバイトを紹介してもらい、ギリギリの生活を送っていました。卒業時には貯金は殆どなく、卒業後、就職してから初任給までの間は正直とても苦しかったです。

金銭面以上に辛かったのは、苦しい事や大変な事を話せる人が、当時誰1人いない事でした。19歳頃から僕は自分で月1回のペースで心療内科へ通うようになりました。退所後2年間ぐらいいは、施設の職員が直接児童の元へ会いに行き現状や相談事、悩み事等を聞いたりしてくれるようなサポート?があり、僕の所にも「担当だから」という理由で来てくれていました。僕は正直その職員との関係性が良いとは思えず、「話す事は特にないです。」とだけ伝えて毎回数分で終わるような感じでした。

「にじのしずく」と関わる機会を得て、生活で困った時の相談事やその他行政面での手続き等助けて頂いた部分が沢山あります。その反面、もう少しだけ僕の話聞いてほしかったなあと



思う事や「にじのしずく」がどこまでの範囲で支援してくれるのかが分からず、僕自身もどう動けばいいか分からなくなり、支援のすれ違いが度々あった事も事実です。関わる人達一人一人との関わり方、支援の距離感(どこまで介入し、どこからは自身で行ってもらうのか等...)を模索する中で、支援方法や段取り等を明確に当事者へ伝えて欲しいと思いました。

現在は資格を活かした仕事ではありませんが、正職員として働いています。通院は現在もしており、正直未だに体調を崩してしまう事もあります。僕は今、仕事では支援を行う側の立ち場になっていますが、職場のスタッフや利用者さんに僕自身も支えられながら、仕事を続ける事ができています。進学できた事で、自分のやりたい事がより明確になり、やりたいと思えた事が出来た事、させてくれた事に関しては周りの方々に感謝しかありません。

また、毎週金曜日の「金ちゃんラーメンの会」が、僕は楽しみで、毎週金曜日に来るのを待ち遠しく思っていました。そこには色々な境遇の方や年齢の離れた方など、沢山の方と関われる事と美味しいご飯が待っているからです。僕は金ちゃんに参加しても隅っこでご飯食べてるだけでしたが、それでも「あ、ここに居てもいいんだ…」「なんかいいなあ…」と思える場所になっていったので、遠くて通うのは大変でしたが、ほぼ毎週顔を出していました。

現在はコロナ禍の状況にある事もあり、開催できずにいる「金ちゃん」ですが、また再開できた日には、多分恐ろしい程の人数でみんなが押しかけに来るかと思います。また再開できる日を楽しみにしてます。



「お母さんになる」ということ

(20代 シングルマザー)

私は小さい頃から子どもが大好きで高校生になると、私は施設で生活していた経験が活かせる仕事がしたいと思うようになりました。施設で育った私だからわかる、辛い思いだったり、嫌な思いをしてる子どもたちに寄り添いたいと思うようになり、今は児童養護施設の先生になることを目標にしています。

私は高校卒業と同時に施設を出て専門学校に進学し、両親といっしょに暮らすことになりました。元々両親とは仲が良くはなく、長い間離れて暮らしていたブランクもあり、関わり方に苦戦しました。両親は喧嘩が多く警察沙汰になることもあり、私は家にいることが嫌で学校やバイト先、友達と時間を過ごし、なるべくお家にいる時間を作らないようにしていました。

やがて私は当時付き合っていた彼氏と同棲するようになりましたが、そのうちに彼氏とも上手くいけなくなり、別れようとした時に妊娠したことを知りました。はじめてわかった時は、正直、嬉しいよりも焦りのほうが大きく、不安が大きかったです。私が通っていた学校は、休学するにも学費を払わねばならず、子育てをしながらバイトもして学校に通えるのか自信がありませんでした。彼氏はそんな私の相談に乗ってくれず、他の人に相談するのも禁止されていました。

周りの人達からは妊娠したことを「おめでとう」と喜んでくれる人や、「子どもを産むのは今じゃない、今の状況で産んでも誰も喜ばないし、子どもがかわいそう」、「経済的にも育てていくのが難しいと思う」などたくさんの意見をもらいました。今中絶すると、将来、よその子どもを見た時に後悔しないか？ 今の自分に子どもを産んで育てられるのか？ 悩みました。そして産んでからでも夢は叶うと思い直し、学校を辞めて自分のもとに来てくれた赤ちゃんを、産む決意をしました。別れるはずだった彼氏とも、2人でアパートを借り

てやり直すことにしました。生活費はこれまで貯めていた貯金を少しずつ切り崩してやりくりしていたのですが、妊婦を雇ってくれる職場は見つからず、面接をしても嫌味を言われるばかりでした。彼氏からも「学校を辞めたなら早く仕事を探せ、子どもが産まれるのにお金がない、これからどうするのか考えろ!」と怒られてばかりでした。専門学校の友達が進級し先へと進み頑張っている姿を見て、自分で決めたことではあっても、後悔もありました。

私は小さい頃から他人に強く言われたり、一気にまくしたてられると固まってしまう性格で、彼氏に威圧されると、黙ってしまうので、余計にイライラさせて殴られしことが続いていました。彼氏が



殴ってくるのはいつも決まって足などの服で隠れる場所ばかりで、ひどい時はあざだらけで足がボコボコになるまで殴られて、次の日歩くのが痛くなる時もありました。彼氏はあざだらけになった私の足を見ると優しくなって殴ったことを謝ってくれました。私は謝ってくれてる姿を見たり、時間が経つと、責められても答えられない自分が全部悪いと思いこんでいました。

彼氏は子どもが生まれてからも、我が子にまったく関心がありませんでした。周りには別れた方がいいと言われても、仕事もなく、頼れる人もいない私は、離婚して子どもをとりあげられないよう、自分さえ我慢すればいいと思い込んでいました。この時の私は1番なりたくない「お母さん」になっていました。私は施設にいた分、家族で仲良く過ごすことに憧れが強く、自分の家族の理想像がたくさんありました。なのに、子どものためだと言って暴力に耐えて家の中でも外でも彼氏の顔色を伺って無理に笑っている「お母さん」を演じていました。自分が小さい頃に両親から「私たち(子ども)がいるから別れられない」と言われ、「悪者扱い」された子どもの頃の記憶が自分の子と重なりました。

そして私は思い切ってにじのしずくのシェルターに入ることを決めました。実際に別れてからも、自立するために何回も環境が変わり、そのたびに子どもが体調を崩したことは何よりつらかったです。子どもの体調を崩してまでやりたかったことなのか、1人で育てていくと言っても本当にこれから先1人で育てることができると悩みました。無理してでも夫と一緒にいた方がよかったんじゃないかと迷う私がいまいました。焦って色々やっても上手くいかず、自分まで体調を崩してしまい、そのたびにまだ1歳の子が私の頭を撫でてくれたりハグしてくれました。逆に嬉しかったこと、よかったこともたくさんありました。私と子どもにはやりたいことを応援してくれる人、困ったことがあったら助けてくれる人がたくさんいて私と子どものことを理解し、大切にしてくれ可愛がってくれる人がたくさんいた事を感じ、とても嬉しかったです。またしずくを通して私と同じようにシングルで頑張っている人に出会えて、「自分だけじゃない。がんばろう」って思えました。

今までの経験を他の人に話すと周りの人はすごいとか頑張っていると褒めてくれます。ですが自分がここまで頑張ってきたのもたくさんの人が助けてくれたからです。自分はまだ全然ダメなところばかりで今でも自分を責めて考えてしまうことがあります。少しずつ自分がなりたいお母さんに近づけるように、これからも子どもといっしょに頑張っていきたいです。



■こんなサポートがあったらいいな、 と思うことを教えてください。

就職活動中の
支援金補助

コロナ渦のなか難しいとは思いますが、
交流会など同年代の方々とお話できる
機会があれば嬉しいです

個人的に
話をする時間を
作ってくれと
嬉しいかもです。

家庭復帰した子のケアが必要だと思う。
家庭状況がそんなに良くなかったら、
金銭面的に苦労している子など。

月イチでいいから
日曜日に
子供だけ
預かって欲しい

もっと
経済支援が
あると助かります

子供の託児。
資格取得が
出来ること。

自炊することの
習慣がつく
サポートがあれば...

食糧支援もとても助かったが、
光熱費等にアてる金銭的な支援が
あった方がより助かるなど
正直思いました

ビーチパーティ
とか楽しい行事

人一倍に体の不調
が多いので、通院
での何かサポート
があれば助かる

今してくれてる
サポートだけでも
十分助かってます!
ありがとう
ございます!

税金について
知りたい。

オンラインでもどんな形でもいいけど、
他の施設卒業した人たちが
元気が知りたい。ネットワーク?的なもの

現金支給

障がい
(グレーゾーン)
の方へのサポート

グループホーム

児童相談所が
もっとふえたら
いいな

生活保護受けてる
人でも食材を提供
してくれるサポート
があったらいい
なって思いました

まとめにかえて

3年目の当相談室は、毎年30人前後積みあがる新規退所者と、年齢を問わず通年で新たに訪れる当事者によって、相談件数は200件を超えました。若者たちの自立達成度は何を持って指標とするか測りにくく、沖縄本島、離島、県外に及ぶ17歳から34歳までの当事者の相談支援は、終結ケースがほとんどないのが現状です。当事者との連絡はほとんどがLINEやインスタ、ショートメール等のSNSでつながっており、スタッフのケータイ電話は勤務時間外、休日を問わず連絡が途絶えることはありません。

当事者からの相談のうち、虐待、セクハラ、パワハラ、借金問題、犯罪被害等で弁護士相談を要するケースもあり、現在は法テラスの範囲内と、協力弁護士のご厚意により無償で対応して頂いています。また、心療内科への通院を要するケースは20件を超えており、虐待やDV被害でのトラウマが、自分の居場所を得て安心安全な暮らしになったとたんフラッシュバックを起こし、若い当事者たちは自分自身のその反応に苦慮しています。このことは全国的にもアフターケア事業所での最大の課題となっており、若い彼らが自分の望む未来を手に入れるためにも、心理治療が不可欠です。精神科通院につながった当事者の中には、希死念慮に苦しむ者もあり、10代後半から20代の死因第1位の自死と当事者は、常に隣り合わせである危機感を現場は感じています。

『だれか信頼できるおとなとつながっている』

『自分の安心できる居場所がある』

『だれかに話すことで、ホッとした経験がある』

そのことが、若者たちを一人ぼっちにしないことにつながると思うのです。アンケートの回答には現れない、つながることのできていない、声にならない声も聴くことができるような相談室でありたいと切に思うばかりです。

若者たちは本当に困った時にこそ、相談することができないように思えます。「迷惑をかけてはいけない」「これ以上は言えない」「甘えてはだめだ」「自業自得だから」「職員は忙しいから」。にじのしずくのスタッフである私たちも当事者もそう言われています。子どもの成長過程で「人に迷惑をかけてはならない」としつけてきたことが、肝心な時に邪魔をしているように思えてなりません。アイデンティティを確立する青年期の彼らのひとり一人の声に耳を傾け、彼らの自立を支援するためには、私たちおとなもまた「助けて」「手伝って」と言い合える関係性を実践してみせる必要があるのかもしれない。カンペキではない間の抜けたかっこ悪さもある、支え合いのなかにある相談室でありたいとおもっています。

